

平成 25 年度国際協力報告会（東京地区）

平成 25 年 10 月 23 日、当国際ボランティア貯金センターの賛助会員並びに NGO 海外援助活動助成事業の助成や国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けた NGO の代表者やスタッフ、また一般の方々を対象とした第 19 回目の国際協力報告会を東京・秋葉原の「AP 秋葉原」にて開催しました。



国際ボランティア貯金の寄附金配分事業を行っている独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構 貯金部 財務課長の下城孝一郎氏から、「国際協力報告会に寄せて」と題して国際ボランティア貯金の概要や仕組み、寄附金の配分状況と国際ボランティア貯金の今後についてご報告いただき、併せて過去に国際ボランティア貯金の寄附金配分に関わっていらっしやった経験も話していただきました。

海外の開発途上地域に対して、ODA（政府開発援助）の実施によりその地域の発展に協力している独立行政法人国際協力機構（JICA）国内事業部市民参加推進課 主任調査役の難波緑氏からは、JICA の NGO 連携と「世界の人々のための JICA 基金」と題し、「ODA とは」から始まり、技術協力や無償・有償資金協力、国際緊急援助隊と市民参加事業など JICA が実施している国際協力について説明があり、JICA の市民参加協力と NGO 連携として草の根技術協力事業と NGO 支援についても、実績などを含めてお話をいただきました。JICA 基金については、活用法から支援範囲まで、ケニアで活動している NGO の活用事例も含めて説明がありました。



朝日理事長挨拶



難波主任調査役様のご講演



下城課長様からのご挨拶

NGOの報告としては、バングラデシュ人民共和国において活動を行っている「日本・バングラデシュ文化交流会」代表の松本智子氏とエグゼクティブアドバイザーの馬上恵美子氏から、「自助努力を促す、草の根国際協力」ー女性たちの経済的自立と社会参加を目指してーと題して、過去に国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けて実施した栄養改善等の事業や、当財団の「NGO 海外援助活動助成事業」の助成金で実施している現地女性の自立のための刺繍と縫製技術指導についてご講演いただきました。

バングラデシュの伝統的な手工芸であるノクシカタ刺繍を現地の女性たちに指導して、よりグレードの高い刺繍作品を作成できるよう日々尽力しています。ノクシカタ刺繍によるクロスやベッドカバー、衣料品やバッグなどを日本国内で販売するために、品質に厳しい日本人の購買意欲を掻き立てるようなデザイン工夫も行っています。

今回は、栄養改善のための教材や現地の女性が作成した150cm四方のノクシカタ刺繍の作品を展示していただきました。150cm四方のノクシカタ刺繍の作品は、1人の女性が1年半かけて作成するそうです。裏面もきれいに処理が施され、かなりの手間がかけられていることが感じられました。



日本・バングラデシュ文化交流会のご講演



終了後、参加者の方々と援助活動のご苦勞や喜び、現地の情報などについて意見交換を行いました。